

「こどもの読書週間」が始まります！（4月23日～5月12日）

この標題は第60回「こどもの読書週間」の標語です。「こども読書週間」（4月23日から5月12日）は、「子どもたちにもっと本を！」との願いから、昭和34年に誕生しました。

昭和34年第1回は、4月27日から5月10日まで、日本書籍出版協会児童書部会が中心となって開催した「こども読書週間」でした。この年は、ポスターではなくしおりを作成し、東京都内の書店やデパートで配布したそうです。その後「子ども読書年」である平成12年に現在の期間に変更されました。

本市では、毎月23日を「福岡市子どもと本の日」としています。平成13年12月に公布された「子どもの読書活動の推進に関する法律」により、4月23日が「子ども読書の日」と定められたことに基づいています。

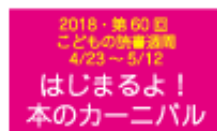
国が4月23日を「子ども読書の日」としたのは、イギリスの文豪シェイクスピアとスペインの文豪セルバンテスの命日である4月23日をユネスコが「世界図書・著作権の日」と宣言したことなどにちなんだものと言われています。

秋にも、読書普及のために「読書週間」があります。この秋の週間は、1924年「図書週間」として発足しました。後に、「図書祭」と改称されましたが、第2次世界大戦などにより一時中止されました。1947年に復活し、1948年以降、10月27日から2週間を「読書週間」とすることになりました。

春の「子ども読書週間」、秋の「読書週間」では、学校でも子どもたちに読書のすばらしさを感じ取れるような取組みを実施したいものです。



（こどもの読書週間のマーク）



（こどもの読書週間のリンクバナー）



（こどもの読書週間のポスター）

（上のポスターの他にも、下のようなロゴやマーク、さらに、しおりやポップ等が同協議会のホームページからダウンロード可能です。ご活用ください。）

☞「読書推進運動協議会」のHPアドレス：<http://www.dokusyo.or.jp>

□ 「新1年生へのおすすめ本リスト」を配布しました！

生涯学習課では、小学校・中学校に入学する子どもたちを対象に、「学校の先生たちが選んだおすすめ本リスト」を作成し、今年度で6回目になります。おすすめ本は小学校や中学校の各教科の研究委員会や研究会に依頼し、推薦していただきました。

(右の図は小学生を対象とした今年のおすすめ本リストの表紙の画像です。)

学校では、学校図書館の特設展示コーナーでの紹介や新規購入本の参考にご活用ください。リストの内容は、下記のホームページからご覧ください。

なお、このページからは次のようなリストもご覧いただくことができます。こちらもぜひ、ご活用ください。



- 閲覧可能なリスト：**
- ・ 図書館員のひみつの本棚（子どもの発達段階別に掲示）
 - ・ 図書館員の選んだおすすめ100冊
 - ・ 齋藤惇夫先生（児童文学作家）おすすめのリスト
 - ・ 松岡享子さん（東京子ども図書館名誉理事長）おすすめのリスト

おすすめ本の紹介サイト：アドレス：

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/shogaigakushu/ed/012.html>

□ 図書館員のひみつの本棚《No.144》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、昨年度に引き続き毎月素敵な本を紹介して下さる楽しいコーナーです。

本の作者である南部氏は、獣医師で猫専門の病院を開いています。南部氏のネコを愛している心が本からも読み取れます。子どもたちも、ネコがタクシーの運転手になって活躍する話に、きっと本に夢中になることだと思います。

☆ 今月の本

『ネコのタクシー』

南部 和也/さく さとう あや/え 福音館書店 2001年 1296円



5月生まれの文学者



天童 荒太 (てんどう あらた) と「永遠の仔」

1960年5月8日 愛媛県松山市生まれ

天童氏は、明治大学文学部演劇学科を卒業した後、童話・映画脚本などさまざまな賞に本名の「栗田教行」(くりたのりゆき)の名で投稿していました。1986年「白の家族」が野性時代新人文学賞を受賞しました。

そして、天童氏は、「ZIPANG」「アジアンビート」などの映画の脚本などを手がけた後、「天童荒太」というペンネームに変え、小説を書きました。ペンネームを変えたのは、「白の家族」で新人賞を取った後にミステリーの賞に応募することになった時に、「応募して、栗田教行という同じ名前が入賞しなかったらみっともない。」と考えたからでした。

「永遠の仔」は、児童虐待などの家庭的な問題から児童養護施設で育った3人の主人公が、弁護士・警察官・看護師となって再会し、それぞれが過去のトラウマに悩まされ、苦しみながらも助け合って生きていこうとする、現代の日本の親子関係をモチーフにした作品です。天童氏は、この作品を書いている3年間、登場人物になりきって書いていたため、いとこの結婚式をはじめ、外出などができないほど、きつい状態でした。

天童氏の作品数はあまり多くないのですが、テレビで連続ドラマ化された「永遠の仔」(日本推理作家協会賞を受賞)のほかに、「家族狩り」(山本周五郎賞を受賞)・「悼む人」(直木賞を受賞)・「孤独の歌声」(日本推理サスペンス大賞優秀作を受賞)などあります。



道尾 秀介 (みちお しゅうすけ) と「向日葵の咲かない夏」

1975年5月19日 兵庫県芦屋市生まれ

道尾氏の本名は、「多田秀介」(ただしゅうすけ)で、玉川大学農学部を卒業しました。高校生まで本をほとんど読んだことのない、外で活動するのが好きな高校生でした。しかし、当時交際していた女の子が純文学の作品をたくさん読んでいたので、道尾氏も、はじめて川端康成氏の「雪国」を読みました。「雪国」を読み、文章でしか表現できない世界があることを知り、とても驚きました。その後、太宰治氏や川端康成氏、そして、横溝正史氏の作品を読んできました。

読書以外では、ヘビーメタルのバンドを組みギターを弾いて歌を歌う、ライブ活動をしていました。

大学では、林学を専攻しオートバイに乗りいろいろなところに植物採取に出かけていました。大学1年の19歳の時に作家になろうと思いましたが、若くして作家になれると思っていなかったため、卒業後は、営業マンとして就職しました。営業の仕事を書きながら作品を書いていました。2004年「背の眼」で、ホラーサスペンス大賞特別賞を受賞し、営業マンをやめ、専業作家になりました。

「向日葵の咲かない夏」は、自殺した同級生の謎を妹とともに追う小学生の「僕」を主人公とした100万部を売り上げたミステリー小説です。

道尾氏は、「月と蟹」で直木賞を受賞しましたが、2009年「カラスの親指」(日本推理協会賞を受賞)から2011年まで、5回連続で直木賞候補になったのは、戦後最多です。道尾氏の作品は、「シャドー」(本格ミステリー大賞を受賞)・「龍神の雨」(大藪春彦賞を受賞)などあります。

♪ 福岡アジア美術館「5月の案内」



* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

8日(火), *12日(土), *13日(日), *19日(土), *20日(日),
22日(火), 27日(日)

※は、ミュージアムウィークにつき、特別開催日です。

・時間: 11:30~12:00 13:00~13:30

・場所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)

♪ 福岡市総合図書館「5月の案内」



* 毎月のおはなし会

5日(土), 6日(日), 12日(土), 13日(日)
19日(土), 20日(日), 26日(土), 27日(日)

・時間 土曜日: 5日, 19日

14:30~14:45 赤ちゃん向けおはなし会

14:50~15:10 幼児向けおはなし会

12日, 26日

14:30~14:45 幼児向けおはなし会

14:55~15:10 つくってみよう やってみよう(幼児向け)

日曜日: 14:30~ 幼児向けおはなし会

15:15~ 小学生向けおはなし会

・場所: 「こども図書館 おはなしの家」

* お知らせです!

こどもの読書週間特別おはなし会(幼児向け)・ぬいぐるみといっしょのおはなし会

・日時 4月28日(土) 14:30~15:00(予定)

・内容 子どもが持ってきたぬいぐるみをそばにおいて、子どもとぬいぐるみが一緒のおはなし会に参加します。おはなし会が終わった後は、「おはなしの家」でぬいぐるみと絵本と一緒に記念撮影ができます。

(撮影機材は、各自ご持参ください。)

☆ あとがき

新しい年度になりました。本年度も「福岡市 子どもと本の日」通信では、学校図書館の運営・活用に役立つ情報の提供、福岡市総合図書館や福岡アジア美術館などの読書活動の紹介などに努めてまいります。特に、学校図書館の運営・活用に役立つ情報の提供では、読書週間中の活動だけでなく、学校で日常的に取り組まれている読書活動などを紹介していきます。学校にも訪問しますので、どうぞよろしく申し上げます。

発行: 福岡市教育委員会 生涯学習課

電話: 092-711-4655 FAX: 092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第144回

今月は頑張るネコのお話です。

『ネコのタクシー』

南部 和也/さく さとう あや/え 福音館書店 2001年 1296円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆ 低学年☆☆☆ 中学年☆☆ 高学年—— 中学生——
高校—— 一般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

よい飼い主を探していたのらネコのトムは、タクシー運転手のランスさんと出会い、ランスさんの飼い猫にしてもらいます。

ある朝、ランスさんは階段から足を踏み外して怪我をしてしまいました。仕事ができなくなったと困るランスさんを見て、トムはネコのタクシーを始めることにします。

怪我をした子猫を病院まで運んであげたり、おばあさんの手作りケーキを孫のところへ届けたり、迷子のおばあさんネコを家まで連れ帰ったりと、トムのタクシーは大活躍。そんなある日、トムは銀行強盗に出くわします！

<子どもに手渡す時のポイント>

物語の楽しさに加え、挿絵も多く、少ししっかりした物語に初めて挑戦するのにぴったり読み物です。全体は90ページ弱と長いですが、10章に分かれているので、1章ずつ読むこともできます。一人読みが難しい子にはまず読んであげてください。読んであげれば幼児でも楽しめます。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

